

10 道徳における環境教育の学習指導事例（第5学年）

環境教育の視点とのかかわり

環境汚染が地球規模で進んでいる現在、環境に対する豊かな感受性や見識をもつ人づくりが教育の場に求められている。このことは、児童が自分の身近な環境問題に気付くことができるかどうか、更には、これを少しでも打開するため、自分のできる範囲で環境保全にかかわろうと動きだせるかどうかという心の在り方が大きく問われることになる。本事例は、自然に対する謙虚さや畏敬の念、自然環境を大切にしようとする態度、また、生命の成長の偉大さを感じ取り、生命のあるものをはぐくもうとする心情や実践的な態度を養っていくことを大切にしたい実践である。

1 主題名 自然を守る (3-(1))

資料名 「一ふみ十年」 (出典 道徳の指導資料とその利用6 (文部科学省))

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人間は、日常の生活の中で自然の恩恵を受けて生き、自然なくしては生きられない。大自然の摂理の下で空気を吸い、水を飲み、動植物を食とし、物質を加工して生存を確保している。さらに人間は、自然を生活に適したものにつくり変えることに努力し、今日の文明を築き上げ、外的な生活面での華やかさや快適さを増進させてきた。しかし、この人間の欲望は大自然の恩恵を忘れさせ、進歩を求め過ぎるあまり、無制限な開発によって自然は破壊され、生態系の混乱を招いている。そして、公害、地球の温暖化、環境破壊など、人類の存続にかかわる難問を、全地球規模にわたって生じさせているのである。

今日、このような社会情勢の中にあつて、人間社会と自然との調和を図っていくことの大切さが叫ばれるようになり、環境に対する豊かな感受性や見識をもつ人づくりが教育の場に求められている。また、環境保全の立場から、環境を保護していくための条例や規則が多く設けられてきている。しかし、「人が見ていないから」「自分一人くらい」などの無責任な気持ちや環境保全に対する意識の希薄さにより、自然保護を訴える立て札や看板が無視され、せっかくの景勝地が汚されていることも多い。

そこで、動物や植物を愛護することにとどまらず、自然破壊を自分の生活との関連の中で考えさせることで、自然環境を保全することの大切さを理解し、自然環境全体に対する豊かな情操を養いたい。このことは、未来に対して責任をもつ人間としての義務ともいえる大切なことである。

(2) 児童の実態について (略)

(3) 資料の活用について

本資料は、主人公の勇が、高山植物のチングルマにうっかりと腰を下ろしてしまい、自然解説員の松井さんに注意され、はずかしくなる。そのチングルマに年輪があることを知って驚くとともに、高山植物は、一踏みすると元に戻るのに十年もかかるという話を聞かされ、自分のしたことを深く反省し、これからは自然を大切にしようと思うようになる姿が描かれている。

ここでは、まず、主人公勇の高山植物を踏みつぶしてしまったはずかしさと反省を通して、自然を愛することの大切なことは分かっているでもそれを実行できない人間の心の弱さに着目させる。その勇が生命をいとおしく思う気持ちになっていく姿を通して、自分にできる範囲で自然を守り、育てることの大切さを感じ取らせたい。その上で、高山植物を大切にすることはもちろんであるが、植物だけに目を向けるのではなく、自然環境の保全という広い立場に立って思考を深め、自分のできる範囲で環境保全を果たしていくことの大切さを自覚させたい。

3 指導計画及び他の教科等との関連

3-(1) (自然愛・環境保全)にかかわる指導計画及び他の教科等との関連

月	道徳の時間	各教科、領域	活動や体験	
4	命のよろこび (4月) 「誕生」 生きることの尊さを知り、 自他の生命を尊重しようとする 心情を育てる。	理科 (5月) 「植物の発芽と成長」 植物の発芽や成長と日光・肥料などの環境と のかかわりについて考える。	学校環境へ の働きかけ	地域環境へ の働きかけ
5	自然との調和 (6月) 「自然尾瀬を守る」 自然のすばらしさを知り、 自然を愛護しようとする心情 を育てる。	家庭科 (6月) 「野菜サラダを作ろう」 食品や用具を衛生的に使い、ごみの処理まで 考えて野菜サラダを作る。	校内美化 活動 (年間)	地域クリー ン活動 (年間)
6		総合 (4月～7月) 「身近な環境調査隊」 自らの経験や調査を通して身の回りの環境に ついて問題意識を高め、課題解決のための方法 や手だてを考える。		
7		理科 (7月) 「動物の誕生」 魚や動物の誕生を通して、卵の変化を理解す るとともに、生命の偉大さを感じ取る。		

7	<p>生きることの尊さ（7月） 「この水のために」 生命のかけがえのなさを自覚し、自他の生命を大切にしようとする態度を養う。</p>	<p>社会（7月）「これからの食料生産」 食料生産の環境への影響、環境保全型の食料生産の在り方について考える。</p>	花いっぱい運動 (一人一鉢) (年間)	リサイクル運動 (年2回)
8				
9		<p>家庭科（9月）「身の回りを整えよう」 身の回りの整理整頓に関心をもち、工夫して整理整頓し、不用品の処理ができる。</p>		
10	<p>来た時より美しく（9月） 「ふくらんだリュックサック」 社会の一員としての自覚を持ち、公共のために尽くそうとする態度を養う。</p>			
11		<p>国語（11月）「地球環境を考えよう」 地球環境や身近な環境問題に関心をもち、自分たちの課題について考える。</p>	農園での作物栽培 (年間)	募金活動 (適宜)
12				
1		<p>社会（2月）「私たちの生活と環境」 身の回りの環境に関心を深め、公害から国民の生活環境を守ることの大切さを理解する。</p>		
2	<p>自然を守る(2月) (本時) 「一ふみ十年」 自然の偉大さを理解し、自然を愛護しようとする態度を養う。</p>	<p>社会（3月）「私たちの生活と自然環境」 国土の保全や水資源涵養のための森林資源の重要性を理解し、育成や保護について考える。</p>		
3				

4 本時のねらい

自然の偉大さを理解し、自然を愛護しようとする態度を養う。

5 本時の学習指導

	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	・教師の支援 ◎評価
導 入	<p>1 道ばたの野草や花に目を向けた経験を話し合う。</p> <p>○ 道ばたの野草をよく見たことがありますか。特に、その花などを見たことがありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> あまり見たことがない。 気にしないで歩いている。 花をたまに見る。 小さくてかわいい花が咲いていた。 図鑑では見たことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に身近な自然や野草の様子をビデオや写真に撮影しておき、提示することで、興味・関心をもたせる。 身近な自然に対する意識を聞くことにより、ねらいとする価値へ方向付ける。
展 開	<p>2 資料「一ふみ十年」の範読を聞き、勇の気持ちを考える。</p> 		<ul style="list-style-type: none"> 主人公の勇や登場人物の気持ちや場面展開の状況が分かるように、範読は、声の抑揚・間の取り方・声量に気を付け、コメントを入れながら読む。 立山の景色やチングルマの咲き誇る写真を提示し、室堂の概略について説明し、臨場感をもたせる。 <p>◎教師の範読を真剣に聞いたか。（態度・表情）</p>
	<p>(1) 「腰をおろさないで」と松井さんから注意され、ほおが熱くなった勇は、どんな気持ちでいるのでしょうか。</p> <p>(2) チングルマの年輪を数えている勇は、どんなことを考えているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どうして注意されるのだろうか。 しまった、花を踏みつけてしまった。 高山植物に気を付けるように言われてたのに。 気を付けるのを忘れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面絵を用いて、風景に見とれ、自分の不注意からチングルマを踏みつけてしまったのに気づき、恥ずかしさを感じる勇の心に共感させる。 <p>◎勇の恥ずかしい気持ちに共感できたか。（態度、表情、発言）</p>
		<ul style="list-style-type: none"> こんな小さな植物でも、十年も生きたのか。すごいな。 マッチ棒の太さになるまでに、十年以上かかるなんて、 	<ul style="list-style-type: none"> 実物大のマッチ棒を使い、年輪の細かさを補足する。その太さの中に年輪が十以上あることを実感させ、自然の偉大さについて確かめる。 場面絵を提示し、一踏みで植物の命を奪ってしま

	<p>すごいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな植物でも、踏み荒らしていけなかったな。 ・自然は、本当にすばらしいな。 	<p>ったことを後悔する主人公の心の痛みを感じ取れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな小さな植物にも生命があることを発見し、後悔する勇に共感させるとともに、自然を守る意味を深く考えさせる。 ・自然を守ることが、ひいては生命尊重ということにつながり、大切にしなければならないことを印象付ける。 <p>◎チングルマの年輪を数える勇の姿を話し合うことで、生命の偉大さと大切さを感じ取れたか。(態度、表情、発言)</p>
<p>(3) 松井さんから「一ふみ十年」という言葉を聞いた勇は、どんなことを思っているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いけないことをしてしまったな。 ・一度壊した自然はすぐには戻らないんだな。 ・一人一人が気を付けないと自然は守れないんだ。 ・これまでも、いろいろな人が大切にしてきたんだな。 ・自分もこの言葉を忘れないようにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「一ふみ十年」という言葉を提示し、どういう意味なのだろうと投げかけ、松井さんの言葉の意味をpushさせる。 ・思慮反省の考えもですが、反省だけでなく、生命の大切さや自然の大切さをかみしめ、二度と不注意な行動はしないようにと決意する主人公の想いを捉えられるようにする。 ・ワークシートを活用し、メモ程度に、簡単に自分の考えをまとめる。それを基に話し合うことで、全員が自分の考えを自信をもって発言できるようにする。 ・小集団の話し合いを取り入れ、「一ふみ十年」の意味とその言葉に対する人々の思いについて考えさせ、環境保全に対する思いの深化と広がりを図っていく。その際、小集団での話し合いの意見は統一する必要はない。 ・小集団での話し合いの結果を全体に広げ、自然を大切にすることを深め、一人一人が自然を守らなければならないことを感じ取らせる。さらに、全ての人まで広げて考えさせるようにする。
<p>3 今まで自然に対してどのようにかかわってきたか、自分の在り方を見つめる。</p> <p>○ これまで、日常生活や観光地などに行ったときに、自然とどのように接してきましたか。また、普段から自然を守るためにしてきたことはありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を大切にすることをあまり考えなかった。 ・庭の花にいつも水をあげている。 ・ごみや空き缶が散らばっていたが、そのままにした。 ・山に登ったときごみを持ち帰った。 ・近くの公園を掃除したり、空き缶を拾ったりした。 ・地域のクリーン活動に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境という広い立場から、今までの自分の在り方を振り返らせるようにする。また、どんな時に考えたか、その時に抱いた感想を発表させながら、自己を見つめさせる。 ・経験を想起できない児童には、教師が具体的場面を一つ一つ示すことで、自己を見つめさせる視点を与えていく。 <p>◎身近な自然環境に対する自分の在り方を振り返ることができたか。(態度、発言)</p>
<p>終末</p> <p>4 教師の説話により本時のまとめをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を守るために働いている地域の人について話をした後、「心のノート」(P58～P61)を紹介し、自然のすばらしさ、自然を守ることの大切さを感じ取らせ、価値の実現に向けて意欲を高められるようにする。 ・一人一人が写真を見たり、文章を読んだりするときの表情やつぶやきを大切にす。

